武　一　中

令和 7 年 10 月 24 日
武蔵野市立第一中学校
学校だより R7－11 号

URL:https://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/

「行事での成長を生かして」の感想

校　長　　中嶋　建一郎

10/20 朝礼の話の感想を 12 人が書いてくれました。合唱コン直前の忙しい中、ありがとうございました。考えを共有しましょう。

●自分では実感があまりなくても、行事での成長は日常生活に取り入れられているのだと考えました。また、非認知能力という言葉はあまり馴染みがなかったのですが、人間にとってとても大切なことなのだと初めて分かりました。

○私は今まで行事は一つ一つ別の意味があって、普段あまりない他学年や他クラスの人との交流の場、楽しむだけの場だと思って行動してしまうことが多くありました。今日の話を聞いて、一年生のセカンドスクールから今週の合唱コンクールまですべてつながっていて、その成長を地域や家庭の人に見せる場である、というふうに考えが改まりました。先日の合唱コンクールのリハーサルで、高橋先生からも行事は楽しむだけの場ではない、という話をしていただき、もっと 3 年生として、一中の顔として、手本となるような行動を意識していきたいと思うきっかけになりました。その一つとして、今週にある合唱コンクールでは思いっきり楽しんで、楽しみながらも責任感のある行動を意識していきたいです。

●去年や今年の行事でクラスが 1 つにまとまったり、自分も成長できたなと感じました。今週末にある合唱コンクールに向けてもクラスでたくさん練習をし、団結して今までよりもよりよいクラスにしていきたいです。

○私は中 3 年生で、あまり時間がないものの、1、2 年生の時の行事を振り返ってみたり、中学校生活最後の合唱コンクールに向けて練習しています。その中でも、非認知能力について考えることの大切さを改めて感じました。校長先生のお話で非認知能力という言葉をはじめて知って、これから何かを進んで取り組むうえで大切にしていきたいと思いました。

●私の中にあるモットーの一つとして、「AI に価値を奪われない人間になるためになんの力が必要か？その力は身につけられているのか？を知るため、様々なことをチャレンジしてみる。」というものがあるので、非認知能力とはまさにこの先の答えに触れているのだなと思いました。わたしたちが大人になる新時代は、きっと頭が良いだけ、優等生なだけじゃ評価されないと思います。そんな時、非認知能力の高い人は高く評価されるでしょう。それだと、これからの時代での人間のあり方は非認知能力の育成にかかっていることとなります。その時、学校ではどんなことを学ぶことになっているのかを知りたいです。

○職場体験を通して、気遣いや礼儀の大切さを強く実感しました。また、メタ認知が得意ではないので、合唱コンに向けて「非認知能力」を高められるように頑張りたいです。

●行事の大切さを知った。

○今の 1-A には合唱コンクールに向けての団結力が今ひとつ足りないと思うので、もっと一人ひとりが意識を高めて 1-A 全員で最高の合唱をし、合唱コンクールでしか得られない経験や成長をその先の学校生活で活かしていきたいと思いました。また、合唱コンクールに限らず、それ以降の行事でも一生懸命努力する・楽しむ・学ぶことを大切にして過ごしていきたいと考えました。

●私はセカンドスクールで協力することの大切さを学びました。このことを活かして合唱コンクール頑張っていきたいです！

○先輩たちと同じぐらい素敵な歌を合唱コンで歌えるように、自分もクラスを少しでも団結させることができるような行動をしようと思いました。

●頭以外での重要な評価でも人は変わるということを考えた。

○今日の話を聞いて、合唱祭でより優勝したいという気持ちが高まって、大きな声を出すことができたから、この話はとてもいい話だと思った。

＝＝

何人かの人が「非認知能力」を初めて聞いたと書いています。朝礼の話でも触れましたが、もう一度確認しておきます。「認知能力」はテストなどで点数として表すことができる能力を言います。「非認知能力」は、「認知能力」ではない能力、テストなどで点数として表すことができない能力を言います。もう少し、深掘りしておきます。

最初に「非認知能力」の重要性を提唱したのは、2000 年にノーベル経済学賞を受賞したアメリカ人・経済学者のジェームズ・ヘックマン教授です。教授は自身の研究の中で、子どもたちが社会経済的に成功をおさめ、ウェルビーイングな生き方を手に入れるためには、学力や IQ を伸ばすことよりも「目標達成を諦めない力」や「自制心」といった非認知能力を育成することが重要であると述べています。

「非認知能力」が高い人は、「何かをやり抜くねばり強さ」「自分の感情をコントロールする力」「計画をたてて実行する力」などがあり、学ぶ土台がしっかりと出来上がっているので、状況の変化にも対応でき、生き抜く力が強いそうです。

では、どうすれば「非認知能力」を高めることができるのでしょうか。私がお勧めするのは、今の自分の「非認知能力」を高める方法です。

先ほどの「非認知能力」が高い人の特徴、「何かをやり抜くねばり強さ」を例にします。勉強などで、やり抜くまではできないけれど、途中まではできる人の場合です。自分で粘り強さを試してみて、10 やらなければならないところ、6 まではできるとしたら、7 を目指します。今の限界を少し前進させるのです。一歩一歩進んで「やり抜く」力を手に入れるのです。自分を少しでも高めようとすることこそが粘り強さだとも言えます。

合唱コンクールでは皆さんの昨日よりも上手くなった歌声が聞けそうな気がします。